

平成29年度

湯沢砂防だより

No.15

平成29年 9月 8日

国土交通省 湯沢砂防事務所

大学生が中山間地に果たす砂防の役割を学ぶ

キャンプ°砂防2017 in 魚野川

を実施しました

砂防に関心を持つ全国の大学生が、砂防事業の意義と中山間地域及びそこに生活する人々に対して果たす砂防の役割を学ぶことで、砂防事業に対する理解を深め、土砂災害防止に関する意識を向上させることを目的としてキャンプ砂防を実施しました。

今回は8月21日～8月25日の5日間の行程で実施し、全国から6名の大学生が参加しました。

「キャンプ砂防」とは？

国土交通省では砂防について現場で実体験をする研修を「キャンプ砂防」として命名し、全国の砂防事務所で実施しています。

これは、国連難民高等弁務官などを歴任した緒方貞子さんが設立した「キャンプ・サダコ」（世界各国の若者が難民援助の現場を実際に体験する研修プログラム）に由来しています。



●砂防事業を学ぶ

砂防学習①:平成23年7月に発生した新潟・福島豪雨の被災状況と砂防の役割について学びました。

姥沢川第2号砂防堰堤



実際に豪雨による土石流や流木をせき止め、下流の集落を保全した砂防堰堤について学びました。

被災当時、流木をせき止めた様子



高棚川溪流保全工



FMゆきぐにの取材を受けました



砂防学習②:中越地震によって発生した河道閉塞の痕跡と、地域の生活を守る砂防事業について学びました。

東竹沢河道閉塞



神沢川砂防堰堤



中越地震により東竹沢地区では大規模な崩壊による河道閉塞が起き、緊急的に応急対策を実施しました。

鋼製の円形の堤体に現場発生した土砂を有効活用して施工した砂防堰堤です。

砂防学習③: 現在施工中の砂防工事現場を見学し、施工の手順や工夫点などを学びました。

冷子沢第3号砂防堰堤その3工事



大源太川第1号砂防堰堤補強工事



砂防学習④: ICTを活用した流域調査方法、環境に配慮した事例について、調査体験やデータ処理体験を交えながら学びました。



ICT(Information and
Communication Technology)
=情報通信技術

UAV(Unmanned Aerial Vehicle
通称ドローン)
=無人航空機



●地域の生活を学ぶ

地域と生活①:新潟県中越地震で被災した長岡市山古志地区の復興までの歩みについて学びました。

やまこし復興交流館おらたる

山古志の地震発生時の状況や、現在に至るまでの復興への取り組みについて伺いました。



地域と生活②:魚野川流域にあるテーブルマーク魚沼水の郷工場にて、工場見学を行いました。

テーブルマーク魚沼水の郷工場

砂防事業による効果や地域の結びつき・影響について学びました。



地域と生活③:魚野川流域の源流調査を行いました。

魚野川流域源流調査

大源太山へ向かいました。
急峻な谷から流れる源流を確認できました。



●研修課題発表

キャンプ砂防で学んだ成果として「地域の安全・安心の確保と共に、地域の活性化や防災力向上のために取り組むべき課題について」と題して発表しました。



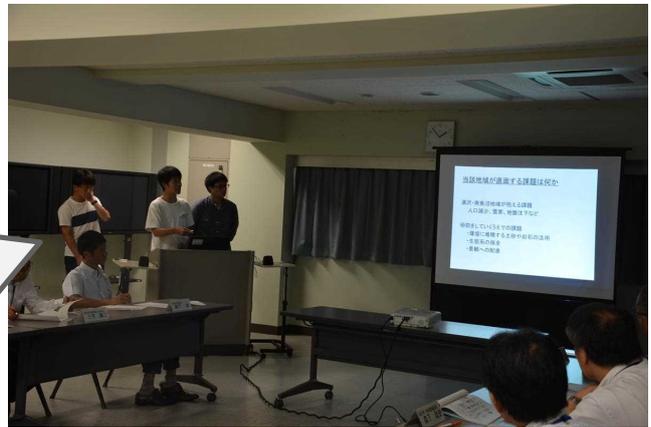
1班

2050年までに実現すべき事業として堆積した流木の活用、砂防施設の親水施設化、小水力発電の設置することを考えました。

これにより管内地域の持続的な発展に貢献したいと思います。

2班

特有の魅力あるこの地域の活性化や持続的な社会活動を支えるための対策として、砂防堰堤に堆積する土砂や岩石の利用や生態系への配慮、景観への配慮が重要になると思います。



閉講式



キャンプ砂防の運営にご理解とご協力をいただいた湯沢町長 田村様、南魚沼市長 林様、南魚沼市議会議員 阿部様、清水区長 小野塚様、湯沢町様、南魚沼市様、長岡市山古志支所様、並びに砂防工事現場での講師の皆様、民宿「上田屋」様、ホテル「アスター」様、テーブルマーク魚沼水の郷工場様に感謝申し上げます。大変ありがとうございました。